

2020(仏暦2563)年 1月冬号 (第109号)

万行寺報

Mangyoji Jihō

発行

浄土真宗本願寺派 万行寺

住職 山崎信充

〒385-0003

長野県佐久市下平尾461-1

電話 0267-67-2460



Photo

今年は、穏やかな元日を迎え、佐久市も初日の出を見ることが出来ました。

本年もよろしくお願ひ致します。

年忌法要表

1周忌	2019(令和1)年	23回忌	1998(平成10)年
3回忌	2018(平成30)年	25回忌	1996(平成8)年
7回忌	2014(平成26)年	27回忌	1994(平成6)年
13回忌	2008(平成20)年	33回忌	1988(昭和63)年
17回忌	2004(平成16)年	50回忌	1971(昭和46)年

住職 法話

浄土真宗の本堂とは

新たな地で仏さまの教え

をひろめようと志し、浄土真

宗本願寺派（西本願寺）のお寺が無く手薄だった佐久地域に万行寺の拠点を移し、開教活動を始めたのが二〇〇七（平成十九）年でした。それは、全く縁も無い地でゼロからの出発で不安だらけのものでした。それに伴い、ご門徒の皆様にご迷惑ご心配をおかけしましたこと、あらためてお詫び申し上げます。

しかし、住居の一間にご本尊にお移り頂き、仮本堂という形で手狭な中でも、新しいご門徒とのご縁も頂きながら、共に十三年という年月を重ねることが出来ました。御

恩報謝の念仏申すばかりでございませう。

その中で、私は、この開教活動を始めるに当たって、十年という節目を目標に本堂建設を考えていました。このまま本堂も仮のまま手狭な仏間にお寺のご本尊を安置しておくこと、そして、境内地を荒れた様にしておくことは申し訳ないことです。そこで、この度、本堂建設計画を進めることにしました。

本堂は、ご本尊を安置するお寺の中心となる建物です。特に、浄土真宗では、親鸞さまの時代から念仏の道場と言われます。本願寺第三代の覚如上人の「改邪抄」に、

されば祖師聖人御在世のむかし、ねんごろに一流を面授口決したてまつる御門弟達、堂舎を営作するひとなかりき。ただ道場をばすこし人屋に差別あらせて、小棟をあげて造るべきよしまで御諷諫ありけり。

と言われます。現代語訳すると、「親鸞さまがこの世におわしました昔には、親しく教えを授けられた門弟たちのなかに、御堂をつくろとする者はいなかつた。親鸞さまは、ただ念仏道場を、一般の民家と、幾分差をつけ、小棟を高めにしてつくるべきであるため、わざわざ戒められたのである。」となります。

親鸞さまご在世の時代か

ら、道場の時代が長く続き、江戸時代に入って道場が寺院化されてきました。そして、現在のようなお参りする場所が広くとられる浄土真宗の寺院形式になったと考えられます。つまり、本堂は開法という仏さまの教えを聞かせて頂く道場であるという前提があるのです。この事を忘れてはならないと感じます。

予算も限られている中で、親鸞さまの時代に沿った規模の建物を考えています。この事業に、有縁の皆様方のご協力をお願い申し上げます。



浄土真宗

◎ 仏事のイロハ

一、お仏壇のお飾り

— 仏さまを仰ぐ —

「灯明の意味」

ローソクの火はなぜ点

かぬか?

お飾りの基本となるのが灯
・香・華の三具足であること
は前項で述べましたが、それ
では、これらの仏具を用いて
ローソクに火をつけ(点燭)、
お香をたき、花を生けるのは
いったいどんな意味があるの
でしょうか。

まずはローソクの火につい
て味わってみましょう。

ローソクに火をつけるのは
なぜか? ……ある人は「単
にお仏壇の中を明るくするた

め」と思っているかもしれま
せん。また、もっと現実に
「お経を読む時の明かり」と
考えているかもしれません。

しかし、それでは肝心なこ
とが抜けてしまっています。
というのも、お仏壇のお飾り
は、単なる飾りつけではあり
ません。私に回けてはたらい
てくださっている仏さまのお
心の表れとして味わうのが、
お飾りなのです。
ですから、ローソクの火も、



確かに私が点けるのですが、
灯った火は仏さまのお徳とし
て味わうことが大切になっ
てきます。

ローソクの火には二つの面
があります。一つは「光」で
す。周囲を明るく照らすその
光は、仏さまの智慧を象徴す
ると言われています。心の奥
底までも知り尽くし、ごろご
ろとした迷いの闇を隈なく照
らして真実に向かわしめる智
慧の光明です。

もう一面は「熱」で、これ
は仏さまの慈悲を表すと味わ
うことができます。熱が氷を
解かすように、大いなる慈悲
の「温もり」が私の固く閉ざ
された心を解きほぐしてくだ
さいます。またその炎からは、
休むことなくはたらき続けて
くださる仏さまの慈悲のお心
が伝わってくるでしょう。こ

のように味わうと、ローソク
の火がこれまで以上に輝いて
くるのではありませんか。

なお、ローソクの色は、一
般に平常や悲しみの時は白、
報恩講や七回忌以降の年忌法
要および喜びの時は赤を用い
ます。また蛇足ながら、お仏
壇のためには洋ローソクより
も和ローソクの方が煤を取り
除きやすく、掃除はしやすい
とのことですよ。

ポイント
▼ローソクの火から、仏
さまの智慧と慈悲のお心
を味わおう
▼報恩講は赤いローソク
を

「浄土真宗 ◎ 仏事のイロハ」末
本弘然著／本願寺出版社刊より

門信徒会会員の皆様へ

新たな年を迎え、本年もよろしくお願ひ致します。

ところで、「住職法話」を読んで、突然の事で驚かれたと思われませんが、住職としての長年の願いを新年の法話とさせて頂きました。お寺の総代方々には、計画を進めていくことを承諾頂いていて、昨年10月の報恩講法要では、参拝者に同じお話しをした段階です。今後、近々に話し合いを重ねて、委員会(仮)を立ち上げる段階になりましたら、門信徒会会員を中心に趣意書並びに寄付の詳細などを申し上げたく存じます。

本堂は、現在の建物の横に併設して増築し、合わせて、駐車スペースなど境内地整備も考えています。そして、近年のお墓事情を見据えて、本堂内に「納骨室」、そして境内に「永代供養墓(合祀、合葬形式)」を設けるということを考えています。お墓に関する悩み相談が特に増えてきている中で、解決する選択肢の一つでもあります。

これら、現在のお寺での課題をまとめますと、

- 仮本堂(仏間)のままでは、お寺のご本尊に申し訳ない。
- 現在の仮本堂(仏間)での法要などが手狭で難しくなってきた。
- 車でお越し頂くための駐車スペースの整備が必要。
- お墓に関する悩み相談の増加に伴い、それに応えることが必要となってきた。

しかし、これらはお寺の一方的な課題で、皆様におかれましては大変戸惑われてこととお察し致します。会員の中には、以前、所属するお寺の一方的な寄付に耐えられず移ってこられた方も承知致しております。寄付はいくらなのか、どう集めるのかというように、課題は山積です。

会員個々に住職が伺い、ご理解頂けるよう進めてまいりたいと考えます。 合掌

編集後記

昨年は、台風による災害があり、被災された方々にはお見舞い申し上げます。また、新型コロナウイルスの広がりが、心配される事態です。お互いお気を付け下さい。◆ 不定期の発行で、秋号もお休みしてしまい申し訳ありません。◆ 本堂建設計画の発足をお伝えしましたが、進捗状況などを寺報でお知らせしていきます。そこで、この寺報で状況をお伝えしていく上で、今までホームページでも寺報を見られるようになっていきましたが、情報開示の面も考えて、今後は門信徒会会員のみの郵送とさせて頂きます。よろしくお願ひ致します。